

教科等	授業改善の視点	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①言語活動の充実「考え書く活動」の推進【学校経営方針】 ②学びを深めるための他者との対話の充実【校内研究】	①アンケート項目「すすんで学習している」「授業中、集中して取り組んでいる」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は3～4割である。どの教科でも比較的6～7割を超える回答をしているため、児童が主体的に学習できるような授業改善が必要である。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約5割であり、児童の思考の流れに沿うようなめあて、発問を設定して、他者との対話の必然性を高める必要がある。	①「考え書く活動」を日常的に行い、書く内容を具体的に示したり、モデルを示したりして書くことへの抵抗感をなくす工夫をする。教科書のふろくを活用して学習の進め方や調べ方、語彙や正しい言語機能を身に付けていけるようにする。 ②児童の初発の感想や学習課題を把握するとともに指導事項をたしかめながら単元構成を行い、教材を根拠として多様な意見が出る発問を設定する。
社会	①学ぶ楽しさを実感させる授業、個に応じた指導の充実【学校経営方針】 ②資料提示の工夫【校内研究】	①アンケート項目「すすんで学習している」「授業中、集中して取り組んでいる」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約7割であり、問題意識をもってすすんで学習できるような授業改善が必要である。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約7割であり、生活経験と知識を結び付けて、児童が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。	①単元の導入では生活を想起して問題意識を高めながら学習課題を設定し、調べ方やまとめ方を例示しながら児童自身が計画して学習に入ることができるようにする。 ②資料の比較、関連付けをして理解を深めたり、次の学習課題をもったりできるように、提示する資料、提示するタイミングなどを計画的に行う。
算数	①東京ベーシックドリルの確実な実施と活用【学校経営方針】 ②考えや気づきを式や図、グラフ等を活用しながら伝える活動の充実【校内研究】	①ベーシックドリルの練習プリントの丸付け、直しをご家庭に協力していただいで実施している。練習プリントの取組により診断テスト結果7割をこえる児童が、学年全体の約48%から約78%に上昇してきた。 ②アンケート結果から、意欲、理解、集中どれも肯定的評価が9割を越え、児童自身の意識が高い。一方で、思考判断表現を問う問題になると正答率が大きく下がるため、知識技能に偏らない学習が必要である。	①引き続き、ご家庭に協力をいただきながら取り組むことに加え、多くの児童がつまづく問題や3年の学習内容とのつながりが強い問題については、補充教室や学級全体でも指導していく。 ②計算練習などのドリル学習は朝学習や宿題で行い、授業では問題の意味や立式の理由、作図などを丁寧に取り扱うことで、数学的な見方考え方を鍛えられるようにする。
理科	①教科担任制による「わかる」授業の充実【学校経営】 ②具体的な活動や体験の充実【校内研究】	①アンケート結果は、全ての項目について概ね高い数値が見られる。しかし「授業中すすんで学習している」という項目に着目すると、学習することに対して受け身であることが分かる。 ②アンケート項目「授業中、集中して取り組んでいる」に関しては、その他の項目と比較して、とてもそう思うと評価している児童の割合が低い。抽象度の高いものを想起しづらく、そのことが集中力の低下に繋がっていることが考えられる。	①児童の気づきや疑問を協議する時間を多く設定したり、教師がそれらを児童の思考に沿って整理したりすることで、児童がすすんで課題発見していけると考える。 ②ICT(動画等)を活用してイメージを高めさせたり、一人ひとりが具体物を操作して実験をしたりできるような活動を充実させることで、集中して取り組める児童の割合が増えると考えられる。
音楽	①めあてと振り返りのある「分かる」授業の充実【学校経営方針】 ②視点を明確にした丁寧な振り返り【校内研究】	①アンケート結果は、どの項目も低学年比べると低くなっている。中学年となり、リコーダー等の初めての課題が多く、学習内容も難しくなってきた難しい、苦手と感じた児童が多いからだと考えられる。 ②単元の終わりにはワークシートを活用し、授業の終わりには挙手でふりかえりを行っているが、特に、配慮が必要な児童への手だてに改善が必要である。	①スモールステップで、めあてを簡潔にし何度か確認したり、ICTを活用したりして多くの児童が理解できるようにしていく。 ②単元の終わりにふりかえりを行い、理解しているか確認をする。配慮が必要な児童には多く声をかける。

<p>図画 工作</p>	<p>①児童が「自分（たち）の学習を自分（たち）でつくる」授業の充実【学校経営方針】 ②学びを深める「他者との対話」の充実【校内研究】</p>	<p>①校内実施の「1学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が93%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることができているが、十分とは言えない。互いに相談したり助け合ったりしながら自分たちで問題解決を行うことについても十分とは言えない。</p>	<p>①紙版画や木材へのくぎ打ちなど、表し方や材料・用具についての経験を充実させていく。今後、様々な表し方や材料・用具の中から自ら考えたり決定したりすることができる授業づくりを行う。今後のアンケートで「すすんで学習している」という質問項目に対して95%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。 ②互いに関わり合う活動では、どのような点に注目したり留意したりして関わり合うのかを提示し、対話するだけに留まらず、学びを深めていけるようにする。児童同士で相談したり助け合ったりする機会を設ける。単元末の児童の振り返りで、授業者の授業改善方法を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①運動の日常化、体育的活動の充実【学級経営方針】 ②振り返り活動の充実【校内研究】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は8割であり、運動の日常化を図るためにはさらに意欲を高める必要がある。 ②アンケート項目「授業は分かりやすい」に対して「とてもそう思う」と回答した児童は約8割であり、運動や活動をふり返る学習を充実させて、児童が「分かった」と実感する学習を重ねる必要がある。</p>	<p>①主運動につながる運動で、手軽で容易な運動やゲーム形式の楽しい運動等を取り入れることで、児童の運動への意欲を引き出し、家庭や休み時間等に取り組める運動の具体例とする。 ②自分や友達の運動について、ワークシートや学習資料、ICTを活用して学習のめあてに対する成果や課題を捉えたり改善したりすることができるようにし、2学期以降の授業アンケートの同項目に対する「とてもそう思う」回答のポイントの上昇を目指す。</p>
<p>外国語 活動</p>	<p>①言語活動の充実「考え」「書く」活動の推進【学校経営方針】 ②意見を示させ、共有させる工夫【校内研究】</p>	<p>①高学年からの外国語科の学習に繋げるために中学年の学習でも少しずつ「読む」「書く」という活動を取り入れ、アルファベットや英単語への慣れ親しみを深める必要がある。アルファベットの単元では、大文字のなぞり書きや点つなぎを用いて「読む」「書く」という活動を行った。 ②英語を用いて意見を示したり共有したりするには、まずは基本的な話型や英単語をインプットする必要がある。授業アンケートにおいて授業が「とても分かりやすい」「分かりやすい」と答えた児童が9割を超えており、取り扱う単語の量や練習量も適切であると言える。</p>	<p>①2学期以降も月に1回程度はアルファベット大文字を読んだり書いたりする活動を取り入れ、書く活動に慣れさせていく。またその際、まずは聞いたり話したりする活動をたくさん行う必要があるため、「like」や「want」の単語を用いて、自分の考えを述べる機会を多く設定する。 ②リアクションを用いて自分の考えを述べられるように、短い絵本を用いて授業の初めにリアクションワードに触れさせ、基本的な話型と共に活用できる力を付ける。</p>
<p>道徳</p>	<p>①人権への意識、相手意識の向上【学校経営方針】 ②生活経験とのつながりに気付かせる工夫【校内研究】</p>	<p>①自分とは異なる考えに接する中で、認めたり自分の考えを深めたりすることが課題である。 ②教材を通して道徳的価値に気付くことはできているが、自己の生活に結び付けて考えられない児童がいる。</p>	<p>①相手の置かれている状況、困っていること、大変な思いをしていること、悲しい思いをしていることを自分のこととして想像することにより、相手のことを考えられるように指導する。また、挙手しての発言だけではなく、書いたものを読み合った<u>り相互指名させたりして友達の考えに触れる機会を増やす。</u> ②自己の生き方についての考えを深めることができるよう、ねらいとする道徳的価値を視点に現在の自分の状況を明らかにし、ねらいとする道徳的価値に関わる経験やそれに伴う感じ方、考え方を直接的に想起させる。</p>